

製造
身知精
正パ

電気化学工業 株式会社 渋川工場

障害のある方が責任を持って働ける環境を



社員の声



萩原 聡さん
(入社:平成25年4月)

楽しく仕事を続けられています

・仕事内容

原材料に電気を流し、どの程度の耐久性があるのかを調べる耐電圧試験を担当しています。常に計算が必要になるため、電卓を使って業務を進めています。

・仕事に対する思い

現在の仕事にはとてもやりがいを感じており、計算間違いなどが無いように常に気を付けて作業をしています。仕事に「ちゃんと頑張ってるね」など声をかけていただくととても嬉しく、「もっと頑張ろう」といった気持ちになれます。今後は他の仕事も覚えて、もっと会社に貢献できるように頑張っていきたいです。

・障害者雇用を考えている事業所へ

障害のある方が何を考えているのか分かりにくいこともあるかと思いますが、そのような時にこそ、どんどん話しかけ、距離を作らないようにしてあげてください。分からない時にこそ進んでコミュニケーションを取り、信頼関係を築くことが大切だと思います。



■耐電圧試験
対象となる材料に電気を流し、どの程度の耐久性があるのかを調べています。



■清掃
精密機械が多いため、ほこりのたまりやすい箇所を入念に清掃します。

社員の1日のスケジュール

障害のある社員10名のうち、知的障害のある萩原さんの業務の様子を紹介します。

- 7:50 ● 出社
ラジオ体操を全員で行った後に、朝礼と清掃を行います。
- 8:30 ● 作業開始
材料の耐電圧試験を行います。機械の操作手順は決まっているため、間違えないように気を付けながら進めます。
- 12:00 ● 昼食
休憩室で他の社員と一緒に談笑しながら昼食をとります。
- 13:00 ● 作業再開
耐電圧試験が終わり次第、上司に報告をします。次の作業の指示を受けて別の作業をしたり、他の社員のサポートに入ったりしています。
- 16:00 ● 退社
日報を提出して退社します。



■保護シート貼り
専用の機械を使用して、基板の材料に保護シートを貼ります。障害のない社員とペアになって行います。

雇用に際しての取り組み

分け隔てなく接する

障害があるということ意識せずに、私どもと一緒に働いている同僚という意識を持って接しています。仕事を覚える早さに個人差はありますが、時間をかけて指導をすることによって、仕事の内容を理解し、仕事もできるようになってくれます。また、障害のない社員と一緒に仕事をさせることによって、彼らのコミュニケーション能力も向上していると思います。



繰り返し教える

障害のある社員は一回の指導で仕事を覚えるということが苦手なため、業務について繰り返し教えるよう現場に指示しています。特に当社では、常に機械が稼働している職場環境のため、安全面でも常日頃から口が酸っぱくなるほど繰り返し指導をしています。そのかきもあり、怪我人を出さず、現在に至っています。



自分で考える力を身に付けられるように

障害のある社員に、指示通りの作業のみをさせるだけではいけないと考えています。そのため、朝のミーティングで1日の作業の確認をし、作業終了時には日誌と口頭で報告を行わせるほか、作業での注意点をノートにメモをとらせ、自分で改善点を考えさせるなど、障害のある社員自身が自分で考え、主体的に行動ができるようになってもらえるよう意識して指導しています。



支援機関を利用する

障害のある社員への指導方法で悩んでいた時、支援機関へ相談し、ジョブコーチ※の支援を受けました。実際にジョブコーチの方に現場に来ていただき、作業内容を確認した上で、障害のある社員に合わせた指導方法を教えていただきました。また、現場社員とのコミュニケーションの橋渡しになっていただき、障害のある社員が現場に溶け込みきっかけをつくっていただけたため、大変助かりました。



※ジョブコーチ(職場適応援助者)・・・障害のある方が職場に適應できるよう、職場に向いて、障害のある方及び事業主に対して支援や助言を行う。

事業内容

電気化学工業株式会社渋川工場は、昭和26年に塩化ビニル樹脂の製造工場としてスタート以来、塩化ビニル系樹脂の製造拠点として発展してきました。現在では、電子回路基板、放熱部材、エミッター、構造用接着剤や半導体プロセス関連製品などのエレクトロニクス関連製品の生産に特化し、同社の電子材料事業の中核拠点として、成長の一翼を担っています。



障害のある社員の業務内容

- ・電気材料関連の点検業務
- ・基板製造業務



障害者雇用を検討される事業所のみなさまへ

障害のある方が「やりがい」を持てるような仕事を任せています



機能材料部長代理
岡島 芳彦さん

長い目で見守る

障害者雇用を始めた当初は、現場社員を含め全員が障害のある社員の仕事のミスや怪我を心配し、気を使っていたためか、会話をしている際に壁ができていました。しかし、少しずつ仕事を覚えていく姿を見た現場の社員たちの心に「見守る」という意識が芽生え、障害のある社員との間に壁はなくなり、現在では障害の有無に関わらず分け隔てなく仕事を

責任をもってもらう

障害のある社員が期待以上の働きを見せてくれたため、現在では重要な設備の運用や原材料の運搬、基板の検査など、当社の業務の中でもポイントとなる部分を任せています。責任を持って取り組んでもらうことにより、仕事に対する「やりがい」が生まれ、職場への定着につながっていると思います。

事業所データ (渋川工場)

設立 1951年(昭和26年)
常用労働者数 390人
代表者 工場長 平野 秀樹
所在地 〒377-8520 群馬県渋川市 中村1135

TEL:0279-25-2109
URL:www.denka.co.jp



会社概要

昭和26年に渋川市に製造工場を設立して以来、電子材料事業の中核拠点として電気化学工業株式会社を支えています。

障害のある社員の雇用状況

障害のある社員数 10人
うち重度障害のある社員数 3人

区分	身体	知的	精神
正社員	5人		
契約社員			
パート		3人	2人
アルバイト			